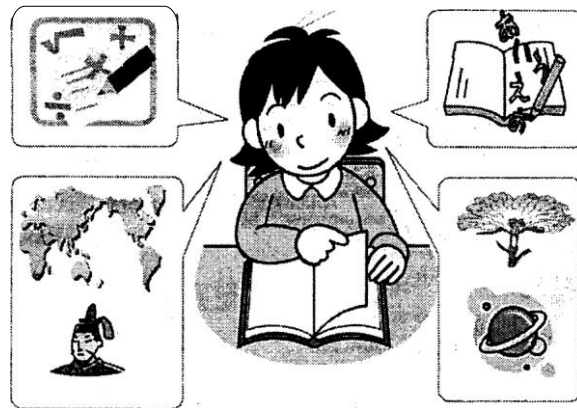


自ら進んで学ぶ子どものための

要保存

家庭学習の手引き

一幼児・小学生・中学生の発育段階に応じた学習のあり方一



小6と中3の全国学力・学習状況調査から、学力と学習・生活習慣とはおおいに関連性があり、「学力は家庭学習で向上する」ことが分かってきました。

子どもたちの学習は、学校での日々の授業や取り組みの充実と同時に、学校と家庭との連携による家庭学習で、学習内容がより一層定着し、確かな学力が伸びていくと考えます。

この『学習の手引き』は、相森中学校区の幼保小中の先生方が、児童・生徒のCRTの結果や実態調査を踏まえ、ともに話し合い、家庭学習のすすめ方についてまとめたものです。お子さんと一緒にご覧いただき、家庭学習の手助けとして活用ください。

須坂市立相森中学校
須坂市立豊洲小学校
須坂市立旭ヶ丘小学校
須坂市北旭ヶ丘保育園

平成24年全校配付版

1 家庭学習の意義 ～ どうして家庭学習が大事なの？

家庭学習には、つぎのような5つの教育的効果があることが分かっています。

(1) 学習内容の定着

家庭で復習することにより、習熟や定着を図ることができます。特に、漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで、学校で「分かった」ことが、家庭で「できる」という自信につながります。



(2) 脳の活性化

脳は、手足の筋肉と同じように、読み・書き・計算を毎日繰り返すことで活性化します。脳は鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなり、いろいろなことに正しく使おうとする性質があります。

(3) 学ぶ習慣の形成

毎日の家庭学習の継続は、自ら学ぶ姿勢を身につけ、やがて当たり前の習慣になります。それは、大人になっても仕事や社会で、常に“学び続ける”大きな力となっていきます。すなわち、『人の生き方』につながっていきます。

小さい頃から毎日欠かさずに、子どもの成長にあった家庭学習をしていくことが大切です。

(4) 精神力の育成

家庭学習の最大の敵は、テレビやゲーム、パソコンなどの「誘惑」です。これに打ち勝つことは、時間や欲望を制御できることにつながり、辛抱強さ・根気・集中力を養うことができます。テレビやゲームなどの時間をきめて、学習や読書の時間をしっかり確保しましょう。そのためには、テレビを消す、みんなで読書するといった家族全員の協力が必要です。

中学生になれば、そうした環境を自ら作りだし、「自律」そして「自立」に近づいていくようにせねばなりません。

(5) 家族のふれあい

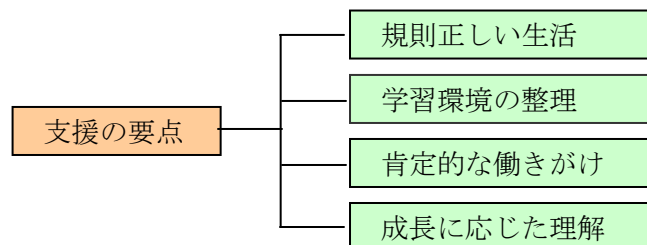
「本を読んでいるとき、横で聞いている」、「勉強がわからないとき、教えたり一緒に考えたりする」など、学習する子どもに保護者がかかわることでコミュニケーションが図れます。

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定にもつながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。



2 家庭学習の支援のポイント ～ 保護者へのお願い

家庭学習の効果をあげる上で、保護者をお願いしたいことは、以下の4点です。子どものやる気を引き出すためには、小さい頃からの働きかけがとても大切です。



(1) 規則正しい生活の大原則

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。夜遅くまで勉強して睡眠不足になるよりも、7時間以上の睡眠時間を確保する子の方が成績がよいというデータがあります。経済的な活動を優先する現代においては、何よりも“子どもの生活リズムを一定にする”ための工夫が大切です。

(2) 学習環境の整理、整とん

学校では、家庭学習を毎日出します。休みの日でも例外でなく、とにかく毎日続けることが大切です。これを妨げる要素には、十分配慮しましょう。

- ア 習いごとやおでかけ等の日でも、学習の時間を生み出す工夫をする。
 - イ テレビやおやつなどとの「ながら勉強」をやめ、一つに集中する。
 - ウ 音や映像が無闇に飛び交う場を作らず、静かな学習環境を整える。
 - エ 気が散るもの(ゲームや漫画本など)を学習する周辺に置かない。
 - オ 整頓され、すっきりした場所で、机に向かってよい姿勢で学習する。
- いずれにしても、親の目が行き届き、見守り、本人が安心・集中して学習できる環境をつくることは、子どもが小さいほど親の役目が重要です。

(3) 存在を認める肯定的な働きかけ

子どもは、親や教師が子どものがんばりを認め、ほめたり、励ましたりすることにより、意欲を増し、自信をつけ、進んで学習しようとしています。

保護者はついつい口うるさくなりがちですが、強制したり、まちがいを強く叱ったりすることは、逆効果になります。

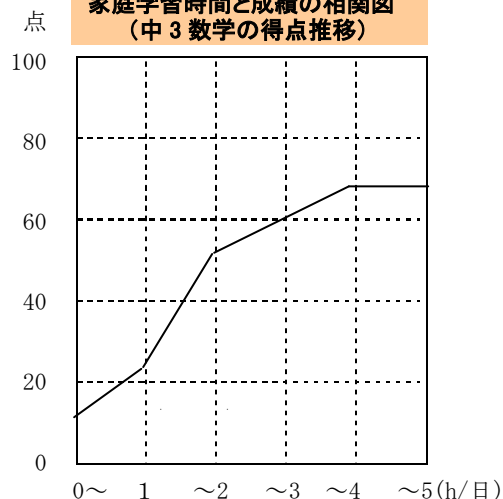
- ア 幼い程、困っている程、口よりも手や肌の接触を大切にしましょう。
 - イ 子どもに「したいか、したくないか」などの感情優先の質問はさける。
 - ウ その子にとって大切なことは何か、子ども自ら語る場を作っていく。
 - エ 小さな成果も見逃さずに、親としての感動や喜びなどを伝えましょう。
 - オ 失敗してもそこから何を学んだかを問い、常に前向きにさせましょう。
- 困ったときだけの心配ではなく、それ以前からの息の長い働きかけが必要であるということです。

(4) 発達段階に応じた成長の理解と見極め

学力は、長時間学習すれば成果があがるとは限りません。短時間で集中して勉強することが長続きの“コツ”ですが、年齢により異なります。

- ア 学年の集中時間＝(学年)×10分を目安にしましょう。
- イ 脳の発達段階に応じた内容を、適切さをもって対処しないと適応できません。
- ウ 学年があがるにつれて、子どもは主体性を欲する体と心になっていきます。
- エ 中学では、定期テスト前に毎日4時間程度の学習が加わる必要があります。

家庭学習時間と成績の相関図
(中3数学の得点推移)



	時間	主な内容
小学入学前	10～15分	机に向かっての絵書きやお話聞き
小学低学年	20～30分	教科書読みとひらがな、加減算
小学中学年	40～50分	本読みと漢字書き、乗除算の基本
小学高学年	60～70分	本読み、漢字、意味調べ、四則演算
中学1学年	90～120分	復習中心、自主学習の習慣化
中学2学年	120～150分	復習に自主学習に、予習が加わる
中学3学年	150～180分	復習、自主、予習、進路の学習

一方、最近の脳科学では、脳の一部の働きが敏感すぎて、外部の情報の伝わり方がほかと異なったりする場合があります。そして、

- ・脳のある領域の感度がよすぎて、一度に多量の情報をとりこんでしまい、混乱する。
- ・新しい情報を受け入れる際に、慎重に判断してしまい、時間がかかって不安になる。
- ・細かい部分を記憶する働きがよすぎて、全体をとらえる働きが抑えられてしまう。

等から、周りから「ちょっと変わった子」とか、「困った子だな」と思われがちの子がいます。



実は、「がんばっているのに、力が出せずに違和感をもっている子」
「自分ではどうしようもすることができず、困り感のある子」

このような子ども達は、教育的に“特別な支援や援助を必要とする子ども”であり、柔軟な教育が法律的に保障されています。また、幼児の早期からの対応が、よりよい成長と回復を可能にすることが分かってきています。

お子さんが、家庭学習のことで度々困っているようでしたら、できないことをきびしく指摘するのではなく、その子のよさを見つけながら応援できるように、担任の先生、教育相談コーディネーターや市相談員に、気軽に相談しましょう。

3 家庭学習の基本と目標 ～ 子どものたちの克服すべき課題

- (1) 家庭学習は、つぎの5つを「一連の流れ」として押さえてください。
- ①うがいや手洗いをすませ、机の上を整え、学習道具を準備する。
 - ②先生から出された「宿題」は、必ずはじめにやり終えてしまう。
 - ③余裕があれば、自主学習の参考例から選び、やってみましょう。
(高学年は自分で考えたり、計画したりしてよいでしょう)
 - ④勉強にあきてしまうときは、読書やお絵かきなどでよいので、机に向かい静かに始めましょう。(「机に向かう」習慣が大切です。)
 - ⑤勉強が終わったら、明日の準備をしましょう。鉛筆を削り、準備する物を整え、おおよその学習予定を頭に入れておくように心がけてください。

(2) 自主学習の参考例

国 語	算 数	社会・理科・総合など
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習 ・漢字ドリル ・意味しらべ ・生活記録 ・音読、視写 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習 ・計算ドリル ・教科書の問題 ・百マス計算 ・クア、チャレンジ問題 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容や関連した興味ある内容を、資料や本、ホームページなどで調べてみる。 ・授業で学習したことを図や表などにまとめる。
日 常 生 活 の 学 び		
<ul style="list-style-type: none"> ・読書をししましょう。 ・国語辞書、漢字辞書、図鑑、その他を身近に置き、調べましょう。 ・日刊の新聞や小学生新聞など、記事や社説などに目を通しましょう。 ・ニュース番組を親子で視聴し、共通の内容を話題にししましょう。 ・自然や生き物とふれあい、観察してみましょう。 ・詩や歌、百人一首を暗唱しましょう。 ・余裕があれば、市販のドリルや問題集にも取り組みましょう。 ・囲碁や将棋など、頭を使うゲームを楽しみましょう。 ・家の仕事をすすんで手伝いましょう。 		

(3) 各学年で身につけたい力

家庭学習で身につけさせたい力を、表現すれば以下ようになります。

- ・机にすわる来入児
- ・習慣づけの小1年生
- ・習慣定着の小2年生
- ・分岐点を乗り越える小3年生
- ・“9歳の壁”を破る小4年生
- ・ふんばりどころだ！小5年生
- ・中学へ希望を持たせる小6年生
- ・基礎基本を固める中1年生
- ・計画性と予習の中2年生
- ・進路実現に励もう中3年生



なお、各学年の保護者の関わり方、学習の要点などは、別紙を参照ください。

4 最も大切にしたい授業の充実 ～ 家庭学習と授業の連携

(1) 授業学習こそが、社会的学習の基本です。

家庭学習は、あくまでも各家庭での“個人による個別学習”です。学校での授業学習は、その基盤の上に立つ“集団による社会的な学習”です。授業は、互いの意見や考えを出し合い、話し合い、より学習を深める場です。

そのために、以下の3点はお子さんにとり、また所属する学級全体にとってもたいへん重要です。

- ア 教科書や鉛筆、持ち物など、物の準備をしっかりとできること。
- イ 宿題や提出物を実施、提出するなど、時間を管理できること。
- ウ 授業のルールや共に学ぶ喜びを知るなど、社会性があること。

(2) 授業の基本ルールを、ご家庭でも確認ください。

①さわやかなあいさつと返事

- 学級みんなで、学習意欲を高めていこう。
- 教室中に響く元気な挨拶、また静けさの両方を味わいましょう。
- 返事の「はい」は、いつでも、どこでもしっかり伝えましょう。

②チャイム着席

- つぎの授業の教科書、ノートなど準備をしてから、休憩に入ろう。
- 休み時間にトイレをすませ、授業中に離席しないための準備をしよう。
- 授業開始の1分前には着席して、教科書を開き、学習の内容を確かめよう。

③集中して、よく聞く・考える・書く・話すことのけじめ

- まず、先生の説明、友の発言をよく聞き、“目”で聴こう。
- 何が大切か、今は何をすべきか、しっかり考えよう。
- メモをとろう。板書を書きとめよう。自分の気づきをつづろう。
- みんなのために、教室の全体に聞こえる声で、進んで発言しよう。
- 自己を語ろう、互いに話しあおう、解決に向けて取り組もう。

(3) 民主的な学級集団をつくっていくための大切な原則

学校が楽しく、日々の生活が充実するには、児童・職員・保護者・地域にとって安心、安全な場が確保され、人権が保障されることが必要です。

以下は、四者にとって共通に理解しておきたい基本理念です。

- ①命や人権、安全をつねに大切に考え、判断する。
- ②自分が嫌なことは、他人にもしない。
- ③みんなのために、ともに頑張りよう。

5 私たち教員は、分かりやすい授業をめざします ～ 決意宣言

私たち教職員には、さまざまな職務の遂行が課せられていますが、何よりも大切にしたいのは、子どもたちとの“日々の授業による学習”です。私たちは教材研究を十分にして臨み、魅力ある授業、分かりやすい授業に努め、子どもたちが将来にわたって『生きる力』をはぐくむように、日々邁進したいと思います。

保護者の皆さまには、益々のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。